

## 令和元年度射水市食育推進会議 会議録

日時 令和元年10月24日(木)午後1時30分から

場所 射水市庁舎201・202会議室

出席者 射水市食育推進会議委員〔7名 矢崎委員欠席〕

木田委員、亀谷委員、青木委員、尾上委員、尾山委員、犀藤委員、松浦委員

射水市食育推進会議幹事会〔9名〕

板山福祉保健部長、小見保健福祉部次長、轟保健センター所長、

盛光政策推進課長、星野生活安全課長、北子育て支援課長、山本港湾観光課主査、

福井農林水産課長、菅原学校教育課長

事務局〔5名〕

中山保健センター所長補佐、宮本係長、山口主査、高原主任、川淵主任

(午後1時30分開会)

### 1 開会(司会:轟保健センター所長)

### 2 会長挨拶

### 3 新任委員の紹介

### 4 議事

#### (1) 食育関連事業について(資料1・2説明)

#### 意見交換、質疑応答

木田会長

毎回思うのですが、多彩でいろいろな事業があります。市民の皆さんに情報提供をする場合は、写真や絵で説明するとわかりやすいと思います。

東京で浜作のイベントがありましたが、富山から食材を取り寄せるのではなく、東京から富山に来て自分の店を持ち、その日手に入ったものを調理するというこだわりの料理人が一人や二人ではなくいるとききました。富山に天然素材の資源があるというのは大きなことだと思います。

医師会が関連しているところでは、小学校4年生すこやか検診がありますが、肥満の人が増えていると思います。中学生になると大人顔負けの体格の方も結構います。中学校1年生でもできるだけすこやか検診をお願いしたいという希望は出しているのですが、学校教育課の方で予定していますか。中学校1年生のすこやか検診は実現可能ですか。

菅原課長

残念ながら今年度は小学校だけです。来年度については内部で検討しています。

木田会長

よろしく願いいたします。中学生の子供のほうが大事な気がします。

あと、小・中学校の学校医を10年位やっていて、最初のころは「早寝・早起き・朝ごはん」のキャッチフレーズが新鮮だったのか、アンケートをとっても朝ご飯を食べている人が90パーセント以上を達成していたのですが、最近それが緩やかになってきている感じがありませんけど、どうでしょうか

青木委員

小杉中学校栄養教諭の青木です。

朝ご飯のことですが、小・中学校通して「早寝・早起き・朝ごはん」の授業は各学校で進めています。ただ、どうしても家の都合、父母が働いている都合等がありまして、子供たちにそこを責めていくとその時間がつらい気持ちになってしまうので、100%は難しい状態です。次は何を食べているか、どんなものを食べてきたらよいかということを中心に小学生にはお話をしています。中学校においては、家の方が用意してくれないからということではなく、家庭科で基本的な調理技術のほうは習得していますので、自分たちで作れるレシピを出したり、家庭科の授業で実際に作ってみたりしています。また、発達段階に応じて中学校1年生は体がどんどん大きくなる時期なので基本的な朝ごはんについて、2年生は部活に力を入れているので体づくり・体力向上のための朝ご飯のレシピ、3年生は受験期ということで脳の働きをよくする学力向上に向けた朝ごはんの取り方について指導しているところです。

尾上委員

食育の日の啓発事業が各所に出てきますね。担当が食生活改善推進協議会となっております。協議会のメンバーは何人ほどおられますか。

それと私もあちこち聞いてみたら、食育の日は知らない人がたくさんいます。だから、実際には底辺までに行き届いていないのではないかと、食生活改善推進協議会さんだけの活動に終わっているのではないかと懸念をしています。

事務局

食生活改善推進協議会の推進員さんは市に325人おられます。支部として旧市町村単位で活動しており、新湊では121、小杉で86、大門は70、大島と下が24人ずつ、各支部でそれぞれ頑張っておられます。食育の日啓発のためチラシ入りティッシュを作っており、例えば食育の日である19日に、スーパーへ来られたお客さんに「食育の日だから家族みんなで食べましょう」という声掛けをしながら配られたり、イベントのときに配るといような取り組みをされておられます。

あと広報の保健だよりというページの下部に食育の日のPRとして、射水市食育推進計画の基本目標である3つの言葉を毎月掲載して、市民の目に触れるようにはしていますが、保健センターや食生活改善推進員だけの取組では、なかなか末端までは届かないといことはありますので、こちらの委員の皆様の方もお借りして、PRしていけるといいのかな、という気はしています。

木田会長

ここにいる各団体の方にもいろんな形で協力お願いしますということなので、医師会でもまた協力するのはやぶさかではないです。

あと、いつも20代30代の方への働きかけがなかなか難しいということになります。先ほど、もうすぐパパママ教室で講義という説明がありましたが、射水市は1歳6か月とか3歳6か月の健診率が高いので、その時にお母さんたちに対して働きかけていただくということは大切だと思いますし、あと保育園などでも大事です。小学校中学校で子供たちはある程度まとまって集団生活している時期がありますので、100%近い人と接触する機会があります。保護者会に僕も呼ばれて食事の講義をしたことがあります。子供たちの食事を改善するためには、その時に来る若いお父さんお母さんに啓発していけます。もうすぐパパママ教室だけではなくこれから保健センターで一貫してやっていければ意味があるのかなという風に思います。

事務局 今、1歳半健診や3歳半健診でも朝ご飯を食べないお子さんについては必ず栄養相談をするように栄養士が関わるようにしております。今後もその時にお父さんお母さんの食事も聞いて強化していきたいと思います。

木田会長 射水青年会議所どうでしょうか。いろんな取り組みの中で食事に関することは少ないのかなとは思いますが、どうでしょうか。若い世代で。

松浦委員 射水青年会議所のほうでは子供たちを対象にした青少年の活動も行っております。その中で子供たちが自分で料理をしてみんなで一緒に食事をします。その時にどのような食材を使うか子供たちで自ら考えて行動を起こしていくという取り組みをしています。毎年内容は変わりますが、食事をとる際にロスを出さないように、食事に関してしっかりしていこうと思っています。

## (2) 市食育推進計画の数値目標について (資料3説明)

## (3) 食育に関するアンケート調査結果について (資料4・5説明)

木田会長 今回のアンケートは具体的でした。これがクロス集計で傾向が出て対応、啓発していけるものができればいいなと思います。このような形で客観的にやるのが大事だと思います。統計的に意味のあるような形で作られた調査になっていると思います。

亀谷副会長 食改の亀谷です。私たちは食生活に関する健康づくりをやっておりまして、年配への事業も大切ですが、若い人たちにも事業をしていかなければと思っています。大きな事業としてスキルアップ事業といって福祉短大のほうで毎年1年生を対象に食育のお話と調理実習をさせていただいています。若い方は参加すると喜んで話も聞いて、結構吸収しておられます。

それから働き世代も対象にしていまして20代から40代を対象にしていますが、子育て中のお母さんにはなかなか参加していただかず、私たちは人集めで四苦八苦して大変です。できたら青年会議所の方とコラボして、ご夫婦で一緒に参加していただけたらと、先ほどから思っていました、声掛けしたら協力していただけますでしょうか。

松浦委員 上のほうに投げかけておきます。

亀谷副会長 よろしくお願ひします。

食育の日のチラシ入りティッシュ配布の話もありましたけど、私は大島ですから大島そば祭りのときは400人、500人とたくさんの方が来られますので、そこで啓発としてティッシュを配るだけでなくA4の資料にいろいろ書いたり、料理の簡単な一品を載せたりしてお話させていただいています。あと、絵本館祭りは若いお母さん方がたくさん来られますので、そこでもティッシュ配りをさせていただいております。

ただそれが、先ほど尾上委員さんがおっしゃったように、どこまで浸透しているかということも私たちが全くわからないことであって、食育の活動は一生懸命やっているけども結果が見えてこない部分もあります。私たちは減塩に関しても毎年アンケートを取っていきまして、それは効果が表れています。だからやっぱりそういう風にアンケートをとってやっていくことも大事なんじゃないかなと思っています。

尾上委員

今副会長さんのほうからありましたけど、減塩の問題です。あるラーメン屋さんに行きますと、最近「減塩、減塩」と言うものだから、子供たちに汁を飲むなという親がたくさんいるそうです。だから、あまり公共の施設とか団体とかでそういうのと言ってもらうと大変影響があると。例えばラーメン1杯汁飲んだら、夕食にこういう風にしなさいとかそういう普及方法も大切ではないかという話がありました。あまり細かく書くと読まない人がたくさんいるから、アピールできるような対応の方法がないものかなと。片方では減塩と言いながら、片方ではそういう人がいるので、なるべく丸く収まる方法がないものかと私は思います。

木田会長

最近天ぷら屋さんでもラーメン屋さんでも野菜多めとかダイエット的なものを出している店もありますので、いろいろな所で取組の工夫はできるのかなという風に思います。

尾山委員

先ほど地産地消という言葉がでてきましたけど、新湊で2月の中頃からホタルイカが取れます。ある程度安くなると塩ゆでですすし、地域の特産品として取れておいしいので給食で子供たちに食べさせてやりたい。兵庫でもホタルイカは取れますが、地元産はこんなにおいしいんだと、小さい時はわからなくても比べられる年頃になるとそういうこと分かってくると思います。だからブリや白エビがある程度安くなってきても、高級魚だけど特産品だから給食で1年に1回や2回ぐらい子供たちに食べさせてあげたい、ブリがたくさん有る時に大根と煮てブリ大根でも食べさせてやりたいと普段いつも思っているんです。でもやっぱり計画を立てて給食の食材を選んでいच्छやるし、突然「今日たくさんあったからこれ子供たちに食べさせてやってください」というわけにはいかないですね。魚だけでなく果物でも野菜でも地元には今こういうものが取れていて、こういうおいしいものがあるんですってことを子供たちに知ってもらうために、できれば1年に1回でも2回でも子供たちに教えて食べさせてあげたいと思っております。子供が大きくなった時に必ずそれを覚えていてくれて、いつかの時点であの時期に地元にああいうおいしいものがあったんだと思し出してくれるんじゃないかなと思いますので、いくらでもまた協力させていただきます。

犀藤委員

いみず野農協女性部ではチャレンジ農業やちゃぐりん大会などで地元の野菜がいつごろ旬でという話をしたり、子供たちと一緒にコシヒカリのごはんでおにぎりを作ったり、漬物も今朝収穫してきて作ったんですよ、と話すことで子供たちへの食育を頑張っています。あと1年に1回ですが朝ご飯を食べようということで、高校生を対象に朝の7時半くらいから大門駅と小杉駅で朝早く作ったおにぎりを「朝ご飯食べてきた?」「朝ご飯食べようね」と渡して、朝ご飯を食べてきた子には「おなかすいたらまた食べられ」と声をかけて食育に力をいれています。なかなか結果が見えてこないということもありますけども、やはりコツコツと積み重ねることが大事なと今は感じています。

木田会長

ありがとうございます。

意見の大筋としては20代、30代、40代の若い世代のお父さんお母さんに食育についての情報が届いていけばいいなということ、それから食育の日とかそういうことについての広報が大切であるということ、それといつも地産地消って言われますけど、こしひかりにしてもカニにしても白エビにしても、「富山はおいしいものがあるんですよ」と言えるものがある、というところを子供たちに伝えていくというのが私たちの責務という気がします。

ほかに何かあるでしょうか。

射水市医師会からは糖尿病デイが今度11月に市民公開講座としてあるのですが、そこで食事についてフロアで体験がありますので、参加を呼び掛けていただくとありがたいです。

射水市医師会としては今までは健診とか医療とか中心ですけど、今後は認知症、パーキンソン病、糖尿病といった在宅医療介護に関しても市民に声をかけていく。病気になる前の状態のところから情報を提供して、悪くなっていくのをゆっくりにしていこう、という取り組みがあります。こういう取り組みに対しても知育、体育といろいろあるかもしれないけど、食育というのは大事だと私としては思います。

(午後3時閉会)